

2018年4月4日  
武田テバファーマ株式会社

## 効能・効果および用法・用量の追加に関するお知らせ

### オランザピン錠 2.5mg・5mg・10mg「テバ」

### オランザピン OD 錠 2.5mg・5mg・10mg「テバ」

武田テバファーマ株式会社(本社:愛知県名古屋市、CEO 兼社長 松森浩士)は、オランザピン錠 2.5mg・5mg・10mg「テバ」およびオランザピン OD 錠 2.5mg・5mg・10mg「テバ」につきまして、本日4月4日付で下記の効能・効果および用法・用量の追加承認を取得したことをお知らせいたします。

今回の追加承認により、先発医薬品との適応不一致が解消され、先発医薬品と同様に処方していただけるようになりました。

#### 記

<p>効能・効果</p>	<p>統合失調症 双極性障害における躁症状及びうつ症状の改善 <u>抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心、嘔吐)</u></p>
<p>用法・用量</p>	<p>統合失調症: 通常、成人にはオランザピンとして5~10mgを1日1回経口投与により開始する。維持量として1日1回10mg経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、1日量は20mgを超えないこと。</p> <p>双極性障害における躁症状の改善: 通常、成人にはオランザピンとして10mgを1日1回経口投与により開始する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日量は20mgを超えないこと。</p> <p>双極性障害におけるうつ症状の改善: 通常、成人にはオランザピンとして5mgを1日1回経口投与により開始し、その後1日1回10mgに増量する。なお、いずれも就寝前に投与することとし、年齢、症状に応じ適宜増減するが、1日量は20mgを超えないこと。</p> <p><u>抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心、嘔吐):</u> <u>他の制吐剤との併用において、通常、成人にはオランザピンとして5mgを1日1回経口投与する。</u> <u>なお、患者の状態により適宜増量するが、1日量は10mgを超えないこと。</u></p>

(下線が追加された適応)

以上